

諏訪実業高校 全日制 令和6年度 学校評価表(自己評価)

学校番号47 長野県諏訪実業高等学校

学校目標			重点目標										
1 学校におけるあらゆる教育活動を通して、社会的資質の向上、キャリア能力の育成、個性の伸張を図り、真に豊かな教養と実践力を持つ社会人の育成を目指す 2 学力を保証し、人間の成長を保証し、進路を保証する高校を目指す。			1 専門分野を学ぶ意欲の醸成と基礎学力の定着 2 豊かな心から生まれるビジネスマナーの育成 3 地域社会を愛し活躍できる人づくりと進路の保証	今年度の重点目標									
			1 生徒が「実社会で信頼される人間」として自立し、進路実現を果たせるよう努めます 2 相手を尊重し、自己を肯定できる、丸く豊かな心を育てます ① いじめ・暴力のない安心・安全な学校をつくります ② 授業を大切にし、生徒の基礎力と専門性を伸ばします ③ 他者と協働し、新しい創造を発信して、地域に貢献できる人材づくりを進めます ④ 生徒に、見通しを持たせ、わかるように伝え、共感的に関わるように努めます ⑤ 時間を守り、時間を有効に活用することができる生徒を育てます ⑥ 身だしなみを整え、あいさつと清掃を進んで行う生徒を育てます										
			〔改善策・向上策〕 緊張感を持ったり切り替えをしたりすることについては、生活指導係の案を中心に全職員で指導していく必要がある。 外部との連携については今後も継続して校内外における活動を充実させたい。また、生徒が主体的に活動出来るよう、教職員の指導体制の充実を図りたい。 対面・オンラインの使い分けについては、その都度、反省点を確認し、今後も継続したい。 観点別評価については、他校の情報収集し、改善を図りたい。その際、各教科の実情を考慮しなければならない点に留意したい。 スクールカウンセリングの配当時間についてははっきり確保する必要がある。										
総合評価	〔成果と課題〕 新型コロナウイルスによるマスクや接触などの制限がなくなった反面、緊張感の無い生活になってしまった生徒も見られるようになってきた。しかし、担任との面談、進路係との面談、商業科職員との面談等、教職員との面談を多く取り入れたり、授業や行事において地域の方の講演や触れ合う機会、就職した卒業生の姿を取り入れたりすることで、生徒自身が将来に目を向けられるように育むことが出来た。 全校集会も対面が基本となったが、コロナ時代に浸透した手法（GoogleClassroom等）による連絡・共有等も、校友会やクラス、教科等で活用して、情報伝達の速さ・効率、紙資源の節約等に繋がっている。 観点別評価の初年度入学生が卒業となるので、ここで一度総括をして改善しても良い。 教育相談係への相談は相変わらず100件を超え、生徒の居場所としての役割を果たしている。スクールカウンセリングも大いに活用されている。												
	対象	評価項目（具体的活動目標）	評価の観点	成果と課題	達成度				改善策・向上策				
					A	B	C	D					
	Ⅰ 生徒指導 生活指導係	1 社会的資質・規範意識の向上	・安心・安全な生活環境の整備 いじめ・暴力・暴言の未然防止と、慎重・毅然な対応	担任・学年・係・管理職と情報共有しながら、連携して対応を進めた。駐輪場での被害が多発したため、防犯カメラを設置したところ、被害後の対応が速やかに行え、被害も激減した。また、状況により警察にも相談し、学校内の安全を守る努力ができた。		○				状況によっては、防犯カメラを臨時に設置することも含めて対応を検討する。面談週間に先立って、学校生活アンケートを実施し、気になる生徒には面談時に声をかけられるようにする。			
			・交通安全意識の向上	交通安全教育を実施し、交通安全意識の向上に努めた。登下校時の苦情などが数件寄せられたが、その都度生徒に伝え、改善を促せた。		○				ステッカーを交付している生徒を集め、学校における管理や交通ルール、マナー等について確認する機会を設ける等、具体的な対策を検討・実施する。			
			・法律・校則を遵守する意識の向上 マナー向上の促進 全職員による同一歩調の指導	ピアスや服装、アルバイト等の指導は、現行の規約通りに行うべきか否かを根本から考える機会を持ち、それらの指導理念を再確認した。ただし、その後の指導が同一歩調で行われているかという点では課題が残る。身だしなみ検査においては、カーサスールを導入し、全職員が統一した基準で指導を行えるようにした。			○			校則については、遵守させるべきものだという理念が持てるもののか否かを再確認し、否であれば変更あるいは廃止を検討する。この検討のプロセスで、校友会役員を通して生徒の声に耳を傾け、尊重すべき意見を尊重したうえで決定することで、生徒の中にルールやマナー、モラルを守ることの重要性を涵養する。			
		2 健全育成	・他者への配慮ができる生徒の育成。 スマートフォンの適切使用について	授業中のスマートフォン使用については、昨年度から引き続き指導ができたが、SNS関係のトラブルは後は絶たない。			○			自己の情報管理を適切に行えるように、授業、学級、学年、係などから指導を重ねていく。			
			・生徒との対話の尊重 問題行動の未然防止・早期解決	毎朝生徒昇降口で生徒へのあいさつと声をかけを行い、生徒の毎日の状況をいち早く捉えることに努めたため、異変に気付いた時には朝から対応することが出来た。		○				朝のあいさつは、係内でさらに連携をとって継続していく。また、校友会とも連携を図り、生徒も巻きこんで、校友会役員との意見交換を行える体制を作る。			
	・学年・クラス担任と連携し、生徒・保護者の心情・背景を踏まえた適切な問題行動への対応		大きな問題を起こした際には、保護者も一緒に取り組んでいただくワークシートを導入した。保護者の指導力を発揮していただき、かつ生徒の主体性を引き出すのに効果があった。		○				問題行動の内容や生徒の状況により、ワークシートを活用した指導は継続していくとともに、事後指導のあり方も検討していく。				
	・指導の定着を図る事後指導		声かけや面談、反省指導後のフォロー指導を通して、教科担当や他の機関と連携を図りながら進めた。			○			ファイル指導に入る際に、教科担任等の関係職員に該当生徒の状況や評価の基準等の連絡を行い、何かあった場合に速やかに対応できる仕組みを検討する。				
・教育相談係	3 相談と支援	・生徒との対話の尊重 問題行動の未然防止・早期解決	毎朝生徒昇降口で生徒へのあいさつと声をかけを行い、生徒の毎日の状況をいち早く捉えることに努めたため、異変に気付いた時には朝から対応することが出来た。		○				朝のあいさつは、係内でさらに連携をとって継続していく。また、校友会とも連携を図り、生徒も巻きこんで、校友会役員との意見交換を行える体制を作る。				
		・学年・クラス担任と連携し、生徒・保護者の心情・背景を踏まえた適切な問題行動への対応	大きな問題を起こした際には、保護者も一緒に取り組んでいただくワークシートを導入した。保護者の指導力を発揮していただき、かつ生徒の主体性を引き出すのに効果があった。		○				問題行動の内容や生徒の状況により、ワークシートを活用した指導は継続していくとともに、事後指導のあり方も検討していく。				
		・指導の定着を図る事後指導	声かけや面談、反省指導後のフォロー指導を通して、教科担当や他の機関と連携を図りながら進めた。			○			ファイル指導に入る際に、教科担任等の関係職員に該当生徒の状況や評価の基準等の連絡を行い、何かあった場合に速やかに対応できる仕組みを検討する。				
		・校友会、相談係、進路係との連携による、指導効果の向上。	校友会役員との意見交換の時間も持てたため、引き続きお互いの理解を深められるよう努力が必要がある。			○			要配慮・要支援の生徒が問題行動を起こした際は、指導方針を立てる合同会議から係職員に参加してもらい、身だしなみ指導に関しては、進路係に企業等の意識調査等の協力を依頼するなどの連携を図りたい。				
		・アルバイトへの対応の推進 許可生徒への指導の充実	アルバイトについては年度更新等を含め許可制であることを再三周知することができた。			○			平日アルバイトを許可した生徒への事後指導を担当に任せだけでなく、係としても具体的な方法を検討する。				
・平和人権係	4 人権意識と仲間づくり	・人権意識に基づく学級経営 ・人権感覚の定着と向上	1学年は5月にSST講演会、2学年は修学旅行事前学習を行った。3学年では1～2月に機会があればDVDなどの研修を学年単位で行いたい。			○			昨年度全校で行った研修がSSTといふこともあり、大規模すぎて指示の通わない難しさがあった。今年度は学年ごとに、講演会や研修を行い、格次室位の会場で効果的に実施できた。				
		Ⅱ 進路指導 進路指導係	1 進路意識の高揚および早期確立	・基本的な生活習慣、学習習慣の確立	年度当初の呼びかけのみで、継続的な取り組みはできなかった。			○		学年とも協力し、取り組んでいきたい。			
				・キャリアデザインに向けた進路行事の実施 （諏訪美ミニメッセ、経営者と語る会、インターンシップ、各種講演会）	授業だけでは得られない話を聞いたり、経験ができた。働く大人と関わることで、現在や将来の学習への意欲へつながった。		○			校外の諸団体の協力で貴重な経験をさせてもらっている。一過性にならないよう、生徒自身の気づきになるものにする工夫が必要。			
				・面談を通じての状況確認、意識向上	2年12月、3年4～5月で進路室全員面談を実施。進路活動や学習活動への動機づけにつながっている。		○			進路室にいつでも相談に行けるような雰囲気を作っていくたい。			
				・卒業生の講演会による意識づけ （「先輩の話を聞く会」）	自分の知っている先輩の働いている姿は在校生の刺激になった。卒業後の社会人生活のイメージが湧きやすくなった。		○			講演する卒業生の業種や分野を調整する。			
・保健係	5 健康・安全教育	・健康・安全教育の充実 生徒及び職員の健康支援 ・感染症予防と環境衛生の推進	ほぽ予定通り健診や行事のサポートを実施できた。課題としては、現在流行性の疾病が（コロナ、インフル等）蔓延している。		○			流行性疾患予防のために注意を喚起し、保健委員会で日常的に換気や除菌を行っている。					
		・整美係	6 校舎内外の美化の推進	・進んで清掃に取り組む意識の構築 ・校内清掃徹底のための職員の監督・指導 ・ゴミ分別の徹底 ・整美委員会の自発的取り組みの支援	ゴミの分別が不十分なところもあるが、改善はされている。職員による監督、指導がないと自発的に取り組むことが難しい生徒がいる。			○		清掃は日々の日課である。生徒、監督職員全員で取り組むことで、清掃への意識を高めていきたい。 整美委員会の役員は美化への意識が高い生徒がいる。委員全体と一緒にどんなことができるかを考えて積極的に取り組んでいきたい。			
				・校友会係	7 自主活動の促進 校友会活動の充実	・リーダーの育成と主体的で組織的な活動 ・委員会活動の活性化 ・校友会行事・文化祭の質的向上	役員会を重ね、生徒の自覚を育むよう行事や委員会活動に取り組ませた。文化祭などの行事では、運営とともに、委員会や全校生徒への周知に力を入れた。				○	生徒が充実感をもって活動できるよう、生徒自身が考える場を設定していく。時間・手間のかかることが、生徒の自治意識を育むため、今後も丁寧に指導を続けていきたい。	
						8 クラブ活動の充実	・加入促進と各部の活発な活動 ・各種大会、コンクール参加に対する支援	クラブ説明会にて、部員の活動を紹介する動画を用い、加入促進に努めた。壮行会も適宜実施することができた。文化祭では文化部発表・展示を保護者の方に観覧していただいた。			○		部活の加入率・継続率を上げる必要がある。クラブ説明会の更なる充実や部員が活躍する場の設定、活動内容の全校周知などの取り組みをして、クラブ活動を応援していきたい。
							Ⅲ 学習指導 教育課程委員会	1 21世紀型学力の養成 新教育課程の検証	・科目指導法の研究と実践 シラバスの検証	各教科、シラバスに基づいた授業と評価を行った。3年選択科目については、定数も含めて適切に対応することができた。教育課程表については、今後の定数減を踏まえ、検討を始めている。学習集団の検討は、他の部署で行うことになった。			○
2 観点別評価	・観点別評価の実践研究	観点別評価の研究については実施できなかった。			○				観点別評価の実践研究にあたるべき部署を明確にし、連携を取りたい。				
教育活動	・進路指導係	3 基礎学力の習得 意欲・関心の喚起	・学習習慣の確立 ・授業態度、授業に臨む姿勢の指導 ・学習理解度の把握と定着への継続的指導 ・基礎学力診断テストの活用 ・朝学習週間の実施	「朝学習週間」を実施。基礎学力向上の一環ではあるが、各学年に応じた適切な時期に対応する内容で実施。授業公開時間中に職員への呼びかけ。授業態度や授業改善には結びつけないに至らなかった。基礎学力診断テストの活用は、検討が必要。			○		「学習」に対する取り組みがまだ不十分である。次年度に向けて最優先の課題を明確にする。「朝学習」について、今年度の成果と課題を次学年に引き継ぐ。				
			・SPH後継事業推進委員会	4 SPH後の地域との連携	・地域文化や探究に関する講演会 ・文化ビジネス研究における実践 ・地域を舞台にした探究活動についての発表会 ・コーディネーターの設置	諏訪市役所の方にお越しいただき講演を聞く中で、地域の良さや課題を再認識することができた。そこから、生徒自身が有識者や店舗・地域の学校などの協力をいただき課題解決を目指し、活動することができた。			○		担当職員が年度ごとに変わっても、継続性を持たせながらブラッシュアップできる仕組みが必要である。		

領域	対象	評価項目(具体的活動目標)	評価の観点	成果と課題	達成度				改善策・向上策
					A	B	C	D	
Ⅳ 専門科 商業科 会計情報科	商業科 会計情報科	1 専門教育の改善・充実	・専門科目の学習目的理解と意欲の喚起 ・社会人基礎力や専門性を高める授業の実施と学習支援	1年生は来年度以降のコース選択について、商業科担任との面談を重ね、きちんと学習内容を理解したうえで選択することができた。自分が学習を深めたい分野について、今年度以上に意欲的に学習を深めることができたと考える。 また、新学習指導要領実施と並行して新たな教育課程を編成した学年の最終年となる、年度末に向けてこの3年間の総括をしたい。多様な生徒の能力に応じた授業の展開や講座編成、補習の実施や外部機関の講座利用など継続的な課題である。		○			何のために商業科目を学習するのかをきちんと説き、普段の学習はもとより検定やコンテストなどにも積極的に挑戦させ、次のステップへとサイクルを回していけるような習慣づけを行う。 卒業後の自分の姿を描いていない生徒が多い。ビジネス基礎やビジネスマナジメントを中心に、将来社会に出た時をイメージさせて自分事ととらえられる意識付けを行う。
		2 資格取得の促進	・各種検定を利用した学習意欲の向上 ・進路活動を意識させた検定取得の促進	各検定を受験する生徒数は例年と同水準であるが、上位級の合格者は減少傾向にある。授業内容の関連付けを強化するとともに補習や外部講座等を活用して意欲を高めていく。ただし、検定のみにならない指導も同時に継続していく。 進路活動に間に合うように検定取得を促してはいるが、下級生時の上位級への挑戦はまだまだまじしいと感じる。3年間を通した検定取得計画をきちんと考えさせたい。		○			授業で一斉受験している検定や受験級を見直す。また、生徒が主体的に受験を希望するような雰囲気づくりや意欲の育成を行う。 高大連携協定を結んでいる学校の開講講座の活用を促進し、資格取得のみならず更に発展した学習をするための進路活動へ結びつける。
		3 地域との連携	・各種取り組みの継続と発展 ・諏訪地域の文化・伝統をビジネスに活かす授業	諏美タウンにおいて担当部署とコースを関連付けて実施したが、あまり良い効果は得られなかった。しかし、昨年度の反省を活かして、新しい部署の立ち上げや再編統合などを行い効率よく運営することができた。営業課では地域の店舗から仕入販売を行い、フード課では地元食材を使ったメニュー開発や各店舗と連携した販売、キッズ課では小学生の社会体験の補助など様々なところで地域の方々と繋がりが学習を展開することができた。 文化ビジネスにおけるデジタルシステム、地域企業と連携した商品開発や企画プレゼンテーションなども継続的に実施している。		○			その年度単発で終わることが多く、上級生と下級生が絡んで学習する機会がほとんどない。諏美タウンや文化ビジネスなどにおいても下級生が日常的に協同学習を行うことができるとうい。 キッズビジネスタウンすわでは小学生に、出前授業では中学生に、商品開発等では地域企業に、生徒の学習のみならず情報発信も兼ねて活動している。開拓をすずめて裾野を広げていく。
	服飾科	1 専門教育の改善・充実	・専門科目の学習目的理解と意欲の喚起 ・社会人基礎力や専門性を高める授業の実施と学習支援	学習成果発表会を3年間の学びの集大成と位置づけ、1年次からの専門科の学習はそこに行きつくものとして、全ての学びが重要であるという理念のもとに指導することができた。 生徒により学習に向かう姿勢や技能に差があり、専門科目の学習内容の検討が必要。		○			指導理念は継続していきたい。 ビジネスコースの専門科目の学習内容の検討を進める。授業作品や検定実施科目、教育課程の検討を進めていきたい。
		2 資格取得の促進	・各種検定を利用した学習意欲の向上 ・進路活動を意識させた検定取得の促進	家庭科技術検定1級合格者17名、うち2冠12名。これから受験する生徒もいるため、人数は変更になる。 色彩検定 3級1名合格。		○			ビジネスコースの検定実施について、実施科目、時期など、教育課程とともに検討していきたい。
		3 地域との連携	・各種取り組みの継続と発展 ・諏訪地域の文化・伝統をビジネスに活かす授業	諏訪大社の縁起物のデザインその他、YumiKatsuratoーク&ファッションショー出演。小学校の学習サポーターや地域との連携行事に積極的に参加した。 岡谷壺糸博物館特別展を全学年で見学するなど、地域の伝統産業を学ぶ機会を持てた。		○			1学年で岡谷壺糸博物館を見学することは地域を知る上でとても有意義だと思う。今後も継続していきたい。
	Ⅰ 教務係	1 学校活動全般の企画・運営	・日常業務運営のための関係部署間の連絡調整及び情報収集・情報把握と対応	必要に応じて、情報把握・連絡調整を行った。		○			様々な部署の情報を聞きに行って、調整していきたい。
			・業務の整理・改善 ・PTA活動の精選	職員会議の議事録の様式の変更や議題の整理に努めた。		○			今後も職員からの要望を元に取り組んでいきたい。
			・校務支援システムによる情報の共有(月暦、施設予約、生徒の出欠席、成績)	有効に活用できているが、生徒の出欠席の入力が遅くなる事がある。		○			職員全体に呼び掛けている。
		2 広報活動の充実(開かれた学校づくり)	・学校案内・学校要覧の発行	予定通りに発行し、各機会に配布して、本校の様子を広めることが出来た。		○			今後も継続したい。
			・HPの充実・更新 ・保護者等への情報発信(マチコミ等)	HPについては広く、保護者等についてはマチコミメールで書面より早く情報が伝わっている。		○			今後も書面とHP・メールを使い分けていきたい。
			・中学生体験入学を含む学校開放事業の周知と充実	学校説明会を保護者ではなく中学生を対象とし多くの中学生が参加した。授業見学後に帰る中学生も居た。		○			日程の組み換えをしたり、中学校との連絡を密にしたりしたい。
	Ⅱ 地域連携 ※専門科以外	1 近隣へのボランティア	・環境美化の推進:整美委員会を中心に学年(学級)単位で通学路のゴミ拾い・除草を行う。(整美係)	年3回の校舎外清掃にて、音段掃除ができない所の雑巾がけや、窓ふき、ロータリーや校舎外の草取り、ゴミ拾い、泥さらいを行った。		○			校舎外清掃以外の機会にも、整美委員による環境美化活動をおこなってきたい。
			・交通・生活・行動困難者への配慮と協力 警察・ボランティア団体との連携活動(防犯登録・旋錠調査と改善呼びかけ)(生徒指導)	防犯登録は年度初めに、施設調査と改善の呼びかけは交通安全週間に関連して例年並みに実施した。		○			警察やボランティア関係と連動しての活動の必要性を再度確認する。
		2 高校大学等との連携	・関係大学との研究協議・実践 ・授業体験への参加およびかけ	夏季休業中の「松大チャレンジ」には多くの生徒が参加した。		○			大学短大希望者には積極的に声をかける。
		3 企業との連携	・インターンシップ、諏訪実ミニメッセ、経営者と語る会、(進路) ・企業勉強会、企業説明会の推進(進路) ・採用担当者の講演会(進路) ・内定生徒と採用担当者との面談(進路)	多くの企業、諸団体の協力のおかげで、数多くの進路行事を実施することができた。生徒の気づきや、達成感につながっている。		○			一過性のイベントにならないよう、学年とも連携して事前事後学習を充実させる。
		4 学校評議員会	・本校の課題の共有・整理と各分掌への報告	本校の活動を見ていただき、様々な視点からの意見を共有し、本校の実践に活かしていくようにしている。		○			評議員会の日時について、特に第1回は早めに知らせたい。電子メールを活用する方法もある。
		5 中学校との連携	・他地区を含む中学校訪問等(教務)	本校に中学生の様子や入学者選抜などの情報を伝え、中学校側の疑問点にも答えている。		○			引き続き実施していきたい。

(注1) 各学年は、関係の分掌と連携し、目標設定および評価に加わる。

(注2) 学校評価委員会が取り扱わない領域及び対象領域の重点目標(活動目標)についても、各分掌で年度当初に基本方針を提案し、反省職員会(1月)に成果と課題および改善策・向上策を提案する。